<本報告書における用語の解説>

O アレルギー

異物が体内に侵入したときに、体を守ろうとする防御(免疫)反応が、体に 不利に作用し、かゆみ、くしゃみ、炎症、喘息等の様々な症状を引き起こす こと

〇 都道府県等

都道府県、保健所を設置する市及び特別区

〇 抗原

一般に免疫反応において原因となる物質を抗原という。特にアレルギー疾患 における原因物質をアレルゲンという。

〇 感作率

症状の有無に関わらず抗原に対する抗体を持っている人の割合

〇 発症率

感作された人のうち疾患を発症した人の割合

〇 有症率

診断の有無にかかわらず、症状を有する人の割合

有病率

ある時点において疾患を有する人の割合

〇 抗原回避

アレルギーの原因物質を避けること

〇 医療圏

主として病院の病床の整備を図るべき地域的単位として設定する医療計画上 の区域

〇 集学的

各分野の専門の医師が協力して治療に当たること

〇 疾患管理

病気を良い状態に保つよう処置すること

〇 診療ガイドライン

標準的な診断と治療に関する指針(本報告書においては、厚生労働省研究班において、関係学会等と連携して作成された診療ガイドラインを指す。)

O アナフィラキシー

抗原に接触したり、摂取した後に、数分から数十分以内にアレルギーによる 症状が体の複数の臓器や全身に現れる激しい急性アレルギー

〇 アナフィラキシーショック

重症アナフィラキシーにより血圧低下、呼吸困難や意識障害を引き起こす現象

〇 減感作療法

抗原のエキスを長い時間をかけ少しずつ注射し、体を徐々に慣れさせていく 治療法

〇 ゲノム診断法

染色体または遺伝子の一組を検査して病状を判断すること

〇 テーラーメード医療

各患者に応じて最適な薬を投与する治療法

O in vivo

生体内で

〇 行動変容

行動が変わること

〇 抗リウマチ薬

免疫に関係する細胞に働きかけ、異常になった免疫系を元の状態に戻して、 病状の進行を止める薬

〇 有害事象

治験薬を投与された被験者に生じたあらゆる好ましくない医療上のできごと

〇 疫学調査

病気の原因と思われる環境因子を設定し、その因子が病気を引起こす可能性 を調べる統計的調査

<リウマチ・アレルギー疾患に関する図表集>

(表1)各都道府県におけるリウマチ施策について

自治体	事業	普及啓発	相談窓口	連携	計画	施策例
府県						
	×	×	×	×	×	要性関節リウマチは軽素対策業務として実施 機能があった場合は適宜対応 悪性関連リウマチは散得対策業体として実施 7.業能搭載事務所で相談対応
北海道	×	×	× 000	×	× × × ×	"盆体双套(长在文件建设))
		 	ऻ ≍			- 国際経済に対するとは数量が多まなし、エキセ
\$	×	t	 			高体周囲 /
青 典 朝 岩 手 原 数 由 頼	×	×		×		
		+÷	ő			福保以为,从中国区第一届的
H 2 4	ŏ	××	ļ			1222 (122 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12
提 島 東 英 城 県	<u> </u>	+÷		×		1交替周型2/2/5/2/5·2/2/2/2/2/2/5/2/5/2/5/2/5/2/5/
Z	ŏ	+ <u>-</u>	š Ö			本体単元と見及生をすによいと集場頂際
山 形		<u> </u>	<u> </u>	×××××××××××××××××××××××××××××××××××××××	× × × ×	一般飲があった場合は適宜対応 要は関連リウマチは教育対象素殊として実施 全条銀元で良常生基帯について電路規数 リウマチ支の者による医療複数者の実施
数 至 	Š	<u>×</u>	×			
培 <u>宝</u> 東		ő			× × × ×	Control of the Contro
	<u> </u>	<u> </u>	8			是各団体の育成 接股があった場合は確重対応
東東東			<u> </u>	X	<u>*</u>	長歌かあった場合は根星対応
神奈川 東京 山 東京石 川 東京 井 東	× ×	ě	×	×	×	<u></u>
夏 净 累		<u> </u>	0	×	×	保健所で最者・意味の集いを実施 教養対策の一部としてリウマチ対策を実施
	<u> </u>		<u>Q</u>		X	推測対策の一部としてリウマチ対策を実施
石川県	ŏ	ő	ŏ	× × × 00	X	
提 井 県		<u> </u>		×	×	難機対策の一部としてリウマチ対策を実施
山 製 競 長 野 競 乗 乗	×	×	ő		×	
英野 県 岐 阜 県 野 関 県	×	ě	<u> </u>	×	×	植態があった場合は適宜対応
載 阜 県	8	L0	0	0	×	難卿対策の一部としてリウマチ対策を実施
1 B	<u> </u>	Lo	Ω	<u> </u>	×	現在作成中の地域保健医療計画家に張り込む予定
東 知 男	×	××	ő	×	×	
粉 夏 知 夏 三 選 東 第	×	×		× × ×	×	損骸があった場合は直宣対応
进 貨 興	×	×	* 00000	×	×	
東	· ×	×	0	×	×	■複談があった場合は適宜対応
京 長 原 内	×	×	0	×	×	開版があった場合は適宜対応 関限があった場合は通常が対応 開発があった場合は通常ができた対策を実施 開発があった場合は通常対応 開発があった場合は通常対応 開版があった場合は通常対応
兵 庫 県	×	×	0	×	×	■難病対策の一部としてリウマチ対策を実施
奈良県	×	× ×	0	×	×	権談があった場合は適宜対応
和数山東	š	×	0	×	×	植骸があった場合は過費対応
馬取卵	×	*****	× ×	×	× ×	l control of the cont
	0	×	0	×	×	群義投管の一部としてリウマチ対策を事施
	× ×	×	Ö	×	×	酵素対策の一部としてリウマチ対策を実施
	ŏ	××	-	×	×	機両対策の一部としてリウマチ対策を実施 財務対策の一部としてリウマチ対策を実施 リウマチに関する知徳の音及音号章集 (団件質託) を実施
ш	1 ×	† ×	0 00	× × × × × × ×	X X X X X X X X X X X X X X X X X X X	難典対策の一部としてリウマチ対策を実施
Ø & 6	ŏ	t š	×	×	× ×	C. CA. (1. C.)
基 川 駅	×	İ ×	× ×	×	-	
4 4	×	† 			×	
全	ő	ŀδ				[[[古文文文の全文和日本教と演译
2		† -×	ő	Š		リウマチ友の会高知県支部と連携 細胞があった場合は適宜対応
12 平 3		t	ł	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	=	MENCH ALBERTAN
福 回 原 佐 賞 原 表 頃 東	+×	t	x		-	
操 子		×	t	× × O	×	
版 本 大 分 實 頃 東		t	+ 	-	€	一大人名英英里美英斯比特亚拉拉拉人工美铁、比斯拉拉美钱(名为在三人比)
	ŏ	t	+ ∺	×		16.40 表现更多是现代法型的现在上来的一切问题的实际。1章公王2.9年/
<u> </u>	H	š	× × 00 00	<u>2</u>		大分観難廃姜者団注連等路額舎に電話・助問相線委託(各々年5.0件) 接触があった場合は直蓋対応 来房・電影・助問機能の実施 HP妄生癒中
山伊東川東河南海地東河南海地東河南海地東河南海地東河南海地東河南海地東河南海地東河南海地	×	t	×	×	×××××××××××××××××××××××××××××××××××××××	天历:高麗・阿四角思以表示 日上女子思中
<u> </u>		×,		_ <u> </u>		<u> </u>
2	12			, ,	(
無回答	34	1 35		39	44	

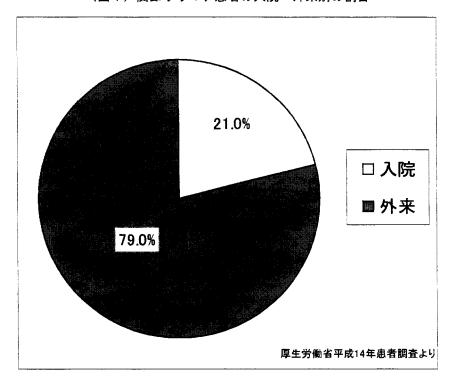
(義考) 事業一各自治体におけるアレルギー対策の事業の有無を調査したもの 連携・アレルギー対策を接進していく上で、市町村等間接団体との連携の有無を調査したもの 計画・アレルギー対策について、各自治体の地域保健服舎計画上定めているかの有無を調査したもの

(表2) 各都道府県におけるアレルギー施策について

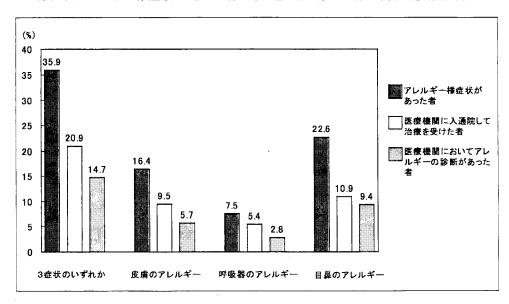
自治体	事業	普及啓免 相談	82日 連携	計画	施 策 例
符 県		<u> </u>			
本	×	. 0	8 - <u>*</u>	× ×	雑民向けアトピー性皮膚炎 Q & A をHPに掲載
之	×	ő	8 *	ž	- Mait 257 Lakonesi
萬 填 菓	×	×	Ö ×	×	7.保管福祉事務所で相談対応
牧 田 県	*0000	, X	0 × 00 × 00 × 00 0 ×	×	一動向けパンフレットの作成 フ女性原理を開発した。 フ女性原理を開発した。 女性原理を指揮を取り起こった。 質問の表現を表現でアレルギー研修の伝達実験 展験する環境を選択した。 大小人の研修会を選集とを表示していての研修会を見まれません。 大小人のでは、大学とは、大学とした。 大学とした。 大学とした。 大学とした。 大学を表示 大学を表示 大学を表示 大学を表示 大学を表示 大学を表示 大学を表示 大学を表示 大学を表示 大学を表示 大学を表示 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学
山		1 8 1 9	8 8	× × ×	暦内世子担当者象隷でアレルギー効準の伝達実施
福 島 県 漢	o o o o o o o o o o o o o o o o o o o	l ŏ l d	8 .	· · · · · · · ·	小児子レル学ニ美恵と食事等についての研修会を見憶車科学センターに受託 教育委員会にて乗減数数を対象としたアレルギー研修会の実施
整 李 聚	×		0 ×	×	教育委員会にて兼護教諭を対象としたアレルギー研修会の実施
群 為 集	ň			ň	
埼 董 県 千 葉 県 東 京 都	000	ŏ	8 8	000	\end{bmatrix}ি健康増進課内にアレルギー相談センター設置
東京事	0	9 9	Q 0	0	各種アレルミー 疾事について パンフレット作成
神奈川県野場県	* o o .	0000	0000 0000 ***		定数点直接びプレル学ニについて行画金編を開催 市数発展を予測等にもいいて行画金編を開催 市数発展を表現を行って後継が決議などと、日中・相談を 乳気を対象に置き変数(パンフサ・日中・相談を)
新 湯 県		l ŏ l d	ŏ L ô	• • • Ç• • • •	『乳が見対象に普及客集(パンプレット・HP・相談会)
看 川 東	ġ.		§ § .	×. × ×	
排 井 県 山 梨 県	H	o i		-	アレルギー疾患の実験調査を特別到表中末年(16年度)で実施 打し、電師等とはアルスを観りで表現であるのは残 にも対象をは、無利を製みでおける相談のは設置 は対象をは、これでは、 対象をは、これでは、 フレルギーのための要素を選挙でニュアルを作成し、解説栄養士に転布 フレルギーのための要素を選挙でニュアルを作成し、解説栄養士に転布
長野 県域 阜県	Ŏ	Öl	Š į	×	花粉飛載情報をHPに掲載 花粉症相談窓口設置 機関所毎半後健連宮協議会で検討
炼 🛔 界	000	ŏ	o L ×	×	売粉飛散情報をHPに提載・売粉度相談専口設置 操機所租子機関連宮障機制 プレルギーのための食事支援マニュアルを作成し能数字景士に配布
	<u>Ş</u>	- × 3	Š	-	
三 重 県	×	: × : (o ×	×	アトピー性度層炎とシックハウス症候群の相談が多い 花粉症予防研修会を小学校要護教員及び保健師対象に実施
進 賀 県	o		×	×	花粉症予防研修会を小学校養護教員及び保健師対象に実施
進 育 県 育都 職 庫 良 県 府 県 県 府 県 県	8	000	0 0	<u> </u>	2.クリョッド 医球炎で連絡を弾き 前僕し、諸者やパシブレット等について株計 花前庭教育情報をHPF衛駆 展師研練業を任み回順権してした影布
英 摩 東	ŏ	l ŏ l ò	o č	1 2	で対定数合情報をHPに掲載 医師研修会を年2回開催してしま配布
条 良 県 和 数 山 県	0 × 000		9	. ×	
14 9 世 集	8	ě ě	č l č	×	保護師が健議時に活用できる「親子の健康づくり支援マニュアル」を作成 アレルギー位度点対象専門委員会設置(中町村、広師条号も参加)
多 故 · ·	Ö	× ×	0 ×		操領師が勧修時に活用できる「劉子の領庫づくり支援マニュアル」を作成 アレルギー性を放列策専門委員会設置(市町村、底師委等も参加) 順息・アトと一性皮膚疾順子交流金の開催 月1回保健所で相談窓口開設
四 山 県 広 島 県	×		♀ ×	×	月1回保健所で相談窓口開設
	000	000	0 0 0 0	<u> </u>	数食店におけるアレルギー食品の表示推進(健康生活応援店推進事業) 医療等を中心する母素の体が行うイベントを保健所が協力開催 医砂粉般情報をHPに掲載
徒 島 県 番 川 県		Òlò	ð I	×	花粉飛散情報をHPに掲載
香川·県 愛・堤・県		ž O	Š	<u>*</u>	THE REPORT OF THE REPORT OF THE PARTY OF THE
	Š O		Š Š	×	定例 庭祖 診惑 ロ 設 置 予 定 で 教 飛 散 情 修 日 P に 後 都 し
福岡県	Ō.	. 0 .	5	×	医師会の花粉情報システム事業を補助
高 知 県 県 開 県 県 県 県 県			× · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	× ×	
英 明 · 朱			ŝ., <u>ŝ</u> .,		1
之言思言松山横泛影响对于東神町富石描山長城南蒙三進原大海南和烏魚岡広山後春蒙高福佐長熊大宮県に 無漢泉東東東東東東北 川湖山川井梨野 中国妇童 医肠毒虫虫 斯特山 島口島川螺幻河 医岭 平分场 鳥魔泉東東東東東東東東東	× 00	ŏ	Š	×	集物アレルギー順演象の実施 県のテレビ春組で 5分間程応勢症等について広報
宮崎 県庭 児島 県	ŝ		8 9	×	原のテレビ書組で5分前程花粉症等について広報 HPを開設
	×		Ş	* · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	11 To Carlot Management of the contract of the
有 無 無 回 答	28 18	32 14	35 16 11 30	- 5 41	

(偏男) 事裏 - 各自治体におけるアレルギー対策の事業の有無を調査したもの 連携・アレルギー対策を推進していく上で、市町村等額係団体との連携の有無を調査したもの 計画・アレルギー対策について、各自治体の地域保健直機計画上定めているかの有無を調査したもの (平成17年1月12日厚生労働省健康局疾病対策課題べ)

(図1) 関節リウマチ患者の入院・外来別の割合

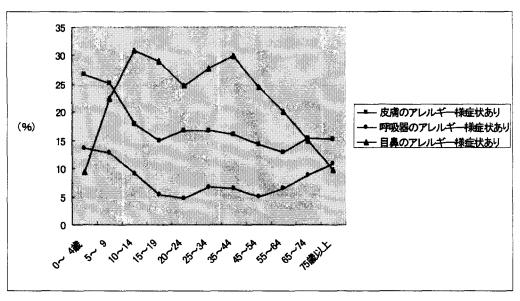


(図2)アレルギー様症状があった者とその診断があった者の割合(複数回答)



厚生労働省平成15年保健福祉動向調査より

(図3)年齢階級別にみたアレルギー様症状があった者の割合(複数回答)



厚生労働省平成15年保健福祉動向調査より

(%)

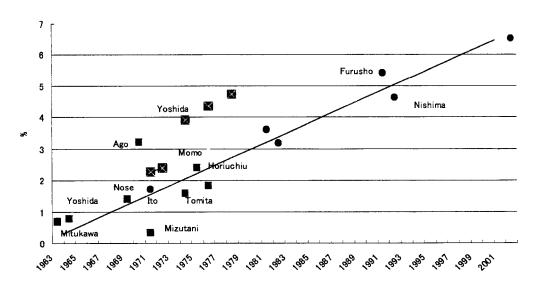
(表3)アレルギー性疾患対策への要望の割合(12歳以上・複数回答)

	100.0
Pレルギー性疾患対策への要望のある者	57.5
医療機関(病院・診療所)にアレルギー専門の医師を配置してほしい	23.3
アレルギーに対する医薬品の開発に力を入れてほしい	21.1
アレルギーに関する情報を積極的に提供してほしい	20,5
アレルギーについて正しい情報を提供する仕組みを作ってほしい	18.9
医療機関(病院・診療所)のアレルギー専門の医師の配置情報を提供してほしい	17.2
アレルギーに対する食品(アレルギーを発症させる物質を除去した食品など)の開発・普及に力を入れ	にほしい 17.1
アレルギーと生活環境との随連の研究及び施策の推進に力を入れてはよい	16.7
医療機関(病院・診療所)に専門の相談窓口を設けてほしい	13.1
行政機関(保健所等)に専門の相談窓口を設けてほしい	7,4
その他	1.4
HERMON	38.2

注:総数には、不詳を含む。

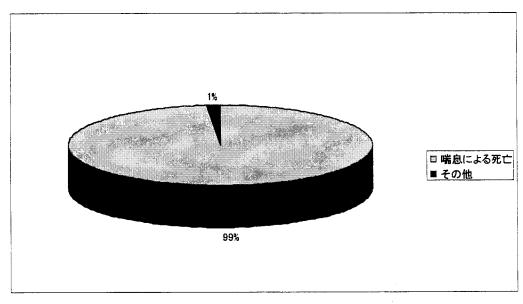
厚生労働省平成15年保健福祉動向調査より

(図4)小児喘息の有病率の推移

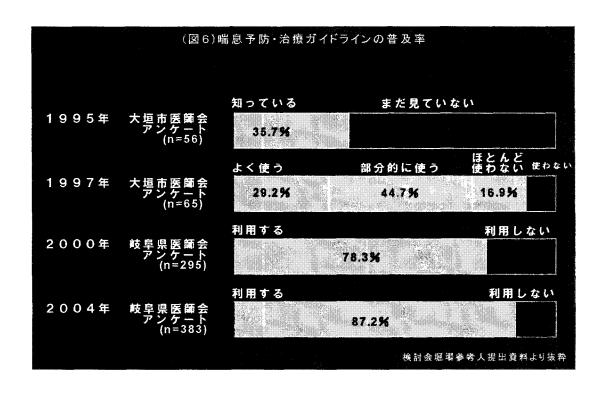


検討会秋山委員提出資料より抜粋

(図5)アレルギー疾患に関連する死亡の内訳について



厚生労働省平成15年人ロ動態統計より



<リウマチ・アレルギー疾患に係わる診療ガイドライン等について>

厚生労働省においては、厚生労働科学研究の中で、リウマチ・アレルギー 疾患の診療ガイドライン等の学会等への作成支援を行い、医療従事者や一般 国民に対する普及啓発に努めているところであり、以下にその一覧を示す。

1 関節リウマチ

『関節リウマチの診療マニュアル(改訂版)診断のマニュアルとEBM に基づく治療ガイドライン』(***)

発行:平成16年4月

作成:厚生労働省研究班

編集:越智 隆弘(相模原病院院長)他

2 アトピー性皮膚炎

『アトピー性皮膚炎治療ガイドライン2005』(*)

発行:平成17年

作成:分担研究「アトピー性皮膚炎治療ガイドラインの作成」 監修:河野 陽一 (千葉大学大学院医学研究院小児病態学教授)

山本 昇壯 (広島大学名誉教授)

『アトピー性皮膚炎-よりよい治療のためのEBMデータ集』(*)

発行: 平成17年

作成: 古江 增隆 (九州大学大学院医学研究院皮膚科学教授)

3 アレルギー性鼻炎

『鼻アレルギー診療ガイドライン 2002年版(改訂第4版)』(**)

発行:平成14年

作成:鼻アレルギー診療ガイドライン作成委員会編集顧問:奥田 稔(日本医科大学名誉教授)

4 喘息

『科学的根拠に基づく (EBM) 喘息診療ガイドライン』(**)

発行: 平成13年

作成: 宮本 昭正(日本臨床アレルギー疾患研究所長・東京大学名誉教授)

『EBMに基づいた抗喘息薬の適正使用ガイドライン』(**)

発行:平成13年

作成:厚生労働省医療技術評価総合研究喘息ガイドライン班

監修:宮本 昭正(日本臨床アレルギー疾患研究所長・東京大学名誉教授)

『一般臨床医のためのEBMに基づいた喘息治療ガイドライン』(***)

発行:平成16年

作成:宮本 昭正(日本臨床アレルギー疾患研究所長・東京大学名誉教授)

伽

『EBMに基づいた患者と医療者のパートナーシップのための喘息診療ガイドライン (小児用)』 (***)

発行:平成16年

作成:宮本 昭正(日本臨床アレルギー疾患研究所長・東京大学名誉教授)

他

『EBMに基づいた患者と医療者のパートナーシップのための喘息診療ガイドライン (成人編)』(**)

発行:平成16年

監修: 宮本 昭正(日本臨床アレルギー疾患研究所長・東京大学名誉教授)

『喘息予防・管理ガイドライン2003』(*)

発行:平成15年

作成:厚生省免疫・アレルギー研究班

監修:牧野 荘平(東京アレルギー疾患研究所・獨協医科大学名誉教授)

古庄 巻史(市立岸和田市民病院長 現こくらアレルギークリニック)

宮本 昭正(日本臨床アレルギー疾患研究所長・東京大学名誉教授)

西間 三馨(国立療養所南福岡病院)

5 食物アレルギー

『食物アレルギーの診断の手引き2005』(*)

発行:平成17年

作成:「食物アレルギー診療の手引き」検討委員会

監修:海老澤 元宏(相模原病院臨床研究セノターアルドー性疾患研究部)他

また、平成17年3月に、厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課 において『加工食品に含まれるアレルギー表示』についてパンフレット を作成・配布

- (*) 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業による
- (**) 医療技術評価総合研究事業による
- (***) 医療技術評価総合研究事業において作成したものを学会等に おいて改訂